

ミャンマー 軍事クーデターから1年

■ 最大都市ヤンゴンと活動地域の現状

2021年2月1日、ミャンマーで軍事クーデターが起こり、それに続く惨状は世界に衝撃を与えました。コロナ感染拡大の波にも見舞われ、二重の苦難の中で人びとの暮らしが1年以上続いています。

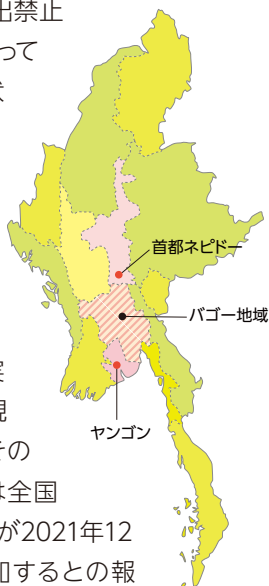
教育分野における影響は計り知れません。公立学校は再開しましたが、教育的な機能は果たせていません。現状に抗議する職員の大量離職・解雇で教員は大幅に不足し、児童生徒も治安上の不安などで多くが学校に戻っていない状況です。

世界寺子屋運動で行う中途退学児童生徒のための継続教育プロジェクトの授業は、ヤンゴン北部バゴー地域の4つのタウンシップ(地区)で、2021年3月に中断したまま現在に至ります。学習者やその家族からは授業の再開を求める声も寄せられましたが、夜間外出禁止

令や治安状況の悪化により困難となっています。仮に治安が安定しても、現状では日本ユネスコ協会連盟のような外国NGOが学校外教育を提供する場合の影響や、市民感情への配慮も欠かせません。

他方で、民主政権時代から教育省が実施してきた、中途退学児童生徒向けの小・中学校クラスは実施されているとの情報もあります。現地パートナー団体*が要請を受け、その教員研修を担当しました。予定では全国93地区で合計6116人の子どもたちが2021年12月ないし2022年1月から授業に参加するとの報告がありましたが、現状では公立学校の状況と変わらず出席者は限定的と見られます。

この厳しい制約の中で世界寺子屋運動として果たせる役割



は何か、現地パートナー団体と意見交換を重ねていきます。以下は、世界寺子屋運動の各支援地区からのレポートです。

■ 継続教育プロジェクト4地区からのレポート

シュエキン：送電所の爆破や道路封鎖があり、連絡に困難をきたしています。地区の教員12人は無事ですが、生徒の多くが仕事を求めて家を離れています。

ダイクウ：大規模な爆発などはなく、電話やネットもつながります。しかし監視や検問が厳しく、盗みなどの犯罪も増えて、住民の不安と緊張が続いています。皆が生活苦に陥り、教員もわずかな賃金で工場や農場の日雇い労働に出ています。

シュエタウン：地区の指導教員Aさんが、反政府活動をしないう旨の誓約書にサインさせられました。ヤンゴンのパートナー団体からAさんには継続的に連絡を取っています。

テゴン：地区の指導教員Bさんと連絡が取れていません。過去に地区長を務めた彼は、軍とPDF(市民防衛軍)双方から疑惑を向けられやすい立場にあり、身を隠していると思われます。

継続教育プロジェクト担当教員からのメッセージ

ミャンマーのことを気にかけてくれて感謝します。私たちの国はいま非常に難しい状態です。失業して仕事が見つからない人が多く、生活必需品がとて高くなっていて、手が出ません。

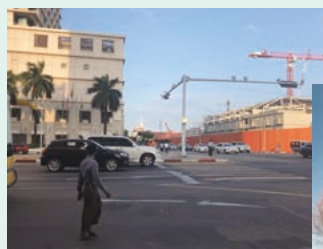
私の友人の中には、軍に殺された人やPDF(市民防衛軍)に参加した人が複数いて、とても辛く悲しいです。身近な人を同様な理由で失って、精神的に参っている人が多くいます。とにかく平和が欲しいです。

*安全を考慮し今号では団体名を伏せてお伝えします。

(海外事業課)

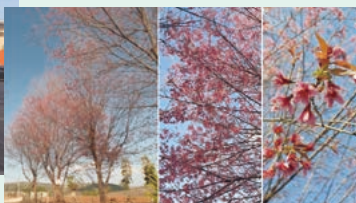
絆メッセージをお寄せください

ミャンマーへの絆メッセージをお待ちしています。最大都市ヤンゴンにはパートナー団体の職員5名が勤務し、各地区と連絡を取り合っています。いただいたメッセージは事務局で取りまとめ、翻訳し、パートナー団体へ送ります。



ヤンゴンの朝の風景

混乱の中でも花をつける
シャン州の木々



◎ご記入いただく項目・送り先

【送り先】kikaku@unesco.or.jp
(企画部広報課機関誌担当)

【必要事項】

- 件名:絆メッセージ
- 会員種別 ①ユネスコ協会・クラブ ②維持会員 ③賛助団体会員 ④個人会員 ⑤一般 (メルマガ登録者・学校・ご寄付者など)
- 所属名 (ユネスコ協会・クラブ名、企業名、団体名、学校名など)
- 氏名およびフリガナ
- メッセージ 200字以内

*団体・個人は問いません。

*現地からの個別のお返事は控えさせていただきます。